

肺がんの早期発見・治療の重要性

昨年4月に国立がん研究センターより発表された2015年のがん罹患数と死亡数予測では、肺がん罹患数は、大腸がん135,800人に次ぐ133,500人で第2位、肺がん死亡数は2位の大腸がん50,600人に対し77,200人で第1位となっています。あらゆるがんの中で、肺がんは罹患数も死亡数もトップレベルであり、その治療成績向上が急務である事がおわかりいただけると思います。

先日、国立がん研究センターよりがん治療後の10年生存率が初めて発表されました。従来、がんの治療成績を示す指標として5年生存率が用いられます。治療後5年の時点で何パーセントの患者さんが生存しているかを示します。長期的ながん治療成績評価として10年生存率は、そのがんの性格を表す意味でも重要な指標となります。肺がんは5年生存率43.8%、10年生存率33.2%と、5年後以降も下がり続ける事が示されました。肺がんが治りにくい疾患である事を表しています。

また肺がん手術症例に限ると5年生存率は77.1%、10年生存率は57.8%と、全症例と比べ格段に生存率が上がっています。手術治療が有効であると判断される症例に手術を行うことが最も効果的

な治療法である事を示しています。

さらに今回の発表で、肺がん治療として手術が選択される割合は全症例の48%である事も示されました。おごっぱに言いますと、未だ過半数の患者さんが、進行した状態で肺がんが発見されているのです。

以上から、肺がんの早期発見症例が増えれば、手術になる症例も増え、結果的に肺がん治療成績がさらに向上する事がわかります。なお今回の10年生存率は1999年から2002年に初回治療を受けた患者さんのデータです。肺がん治療はその後、新規抗がん剤、分子標的治療から最近では免疫治療と、進行例に対する治療法も格段に向上しています。肺がん発症予防として禁煙はもちろんのこと、無症状のうちに発見して治療する事が大切です。そのためには肺がん検診か人間ドックを有効に活用するのが良いでしょう。一人でも多くの方が肺がんに対する早期発見・早期治療の重要性を認識していただき、罹患数・死亡数が減る事を願って止みません。

早期発見・治療により生存率が
高くなる結果が出ています。



熊本大学大学院生命科学研究部
呼吸器外科学分野

教授 鈴木 実

◆肺がん生存率

(国立がん研究センター発表)

5年

	症例数	生存率(%)
I期	8,678	82.9
II期	1,591	48.2
III期	5,498	22.1
IV期	5,990	4.9
全症例	22,075	43.8
手術症例	10,512	77.1

10年

	症例数	生存率(%)
I期	2,117	69.3
II期	521	31.4
III期	1,688	16.1
IV期	1,559	3.7
全症例	6,100	33.2
手術症例	2,954	57.8

企画・制作 / 西日本新聞広告社熊本

地域医療支援病院・熊本県指定がん診療連携拠点病院
熊本県難病医療ネットワーク拠点病院・日本医療機能評価機構認定病院
独立行政法人 国立病院機構



熊本再春荘病院
Kumamoto Saishunso National Hospital
院長 米村 憲輔
合志市須屋2659 ☎096(242)1000 <http://www.k-saisyunsou.jp/>

社会福祉法人 恩賜財団



济生会熊本病院
SAISEIKAI KUMAMOTO HOSPITAL
熊本市南区近見5丁目3-1 ☎096(351)8000
<http://www.sk-kumamoto.jp>

熊本県指定がん診療連携拠点病院・熊本県難病医療ネットワーク拠点病院
熊本県結核最終拠点病院



独立行政法人 国立病院機構 **熊本南病院**
院長 金光 敬一郎
宇城市松橋町豊福2338 ☎0964(32)0826
<http://www.hosp.go.jp/~kumanann/>

 **国保水俣市立総合医療センター**
病院事業管理者 坂本 不出夫 院長 丸山 英樹
水俣市天神町1丁目2番1号 ☎0966(63)2101
<http://www.minamata-hp.jp>